No.186
2020.
3.31
岐阜の博物館
岐阜県
博物館協会
Gifu Museum Association

# 飛騨みやがわ考古民俗館の抱える課題と解決への道筋

飛騨市教育委員会事務局文化振興課　三好清超

## 1　人口減少先進地を象徴する小規模館

飛騨市は岐阜県の最北部に位置します。総面積792.31k ㎡のうち森林 93%、可住地域の標高差2600m、市域の大半が特別豪雪地帯という環境です。人口は２万４千人で、少子高齢化率が４割を超える人口減少先進地でもあります。この自然豊かな市の最北端に飛騨みやがわ考古民俗館があります。

館で収蔵する豪雪地域の国指定民具や縄文を語る貴重な出土品(県重要文化財４件)は、将来に伝える文化財として適切に保存されてきました。一方、小規模自治体の小規模館を象徴するかのように、数年前より事前予約開館・固定電話なしという状況です。館の歴史資料等は身近すぎて価値が見えにくいという課題に直面していたのです。

## 2　平成 29 年度に課が新設されて潮目が変わる

飛騨市は人口減少を正面から受け止め、今のうちに埋もれている文化に光を当てようと文化振興課を新設します。それに伴い、館も活用を試みようと動き始めました。飛騨市教育振興基本計画にある「ふるさと意識をもち　学び続ける人づくり」に館も寄与することを目指します。

平成 29 年度には、収蔵する 1,000 点をこえる石棒の展示を、飛騨市美術館企画展「石棒の聖地　塩屋を掘る」として実施しました。また、全国でも珍しい保育園での縄文土器作り体験も開始しました。平成 30 年度には、近隣の池ヶ原湿原の見ごろ時期に合わせて年間 30 日開館とします。ただし、興味がある市民への一方通行となっている課題が生じたため、いかに館の活動ひいては館の存在を知ってもらうかが次の課題となりました。

## 3　関係人口プロジェクトとしての活動

平成 31(令和元)年度は、市内外に館のファンを増やすことで、小規模自治体と小規模ミュージアムが存続する姿を模索する活動を開始します。「全国に誇る石棒を中心に、関わる市内外の人を増やす」ことを目的にしています。ＩＴ企業・金融機関・建築士と学芸員でプロジェクトチーム「石棒クラブ」を立ち上げ、永田町での石棒の周知イベント、石棒に触れて原石露頭を観察するバックヤードツアー、冬季閉館中の館で石棒撮影会を実施しました。このようなイベントに行政内研究者や考古学を専攻する大学生の参加がありました。

## 4　取組みを可視化

このような活用の取組みを、様々な媒体で発信しています。取組みの様子が全国の人々の目に触れ、館の存在が認知されると、館の価値がさらに高まると考えているからです。その核として飛騨市の文化財ホームページ（http://hida-bunka.jp）やＳＮＳ等で最新情報をお知らせしています。さらに石棒クラブでも発信をフェイスブック(http://facebook.com/sekibo.club)で行い、ほぼ毎日インスタグラムに石棒を投稿する「一日一石棒」(＃石棒クラブ)も行っています。結果、石棒イベントには遠方からの参加があり、問合せも増えました。

## 5　館資料の評価を地域課題の解決に！

令和２年度には、５月 23・24 日の日本考古学協会で、県立吉城高校と取り組んだ地域研究のあり方を発表します。５月 30・31 日には、「ミュージアムで発見する地域の魅力」をテーマに、小規模ミュージアム全国サミットを飛騨ブロック公開講座として開催します。これをお読みの皆様にも是非ご参加いただき、館が地域へ貢献できることは何かを一緒に考えることができれば幸いです。

このように当館では、館収蔵資料の調査研究を行い、市内外に発信する活動を通じて、市が抱える人口減少先進地という社会的な課題の解決にも貢献したいと考えています。

令和元年11月、石棒に触れるバックヤードツアー

# 「国際博物館会議（ICOM)京都大会に参加して」

岐阜県博物館協会企画委員長　可児光生（美濃加茂市民ミュージアム）

ICOM は国際博物館会議（The International Council of Museums）の略称で、博物館に関わる世界規模の組織で 1946 年に発足しました。岐阜県出身で現在の日本博物館協会を立ち上げた棚橋源太郎（1869 ～ 1961）は、1951 年から日本の国内委員会の委員として活動をし、のち 1957 年に世界で３番目、日本では初めて名誉会員として名を挙げられています。

棚橋生誕 150 年という記念すべき年に、日本で初めて ICOM の大会が開かれたということは偶然ですが感慨深いものがあります。

（会場風景）

大会は 2019 年９月１日～７日、国立京都国際会館をメイン会場とし、“Museums As Cultural Hubs：The Future of Tradition”（「文化をつなぐミュージアム－伝統を未来へ」）をテーマとして開催されました。120 の国と地域から、大会史上最多の 4,590 人の参加があり多くの意見交換がありましたが、中でも活発に議論が交わされたのは ICOM の規約改正にも絡む「Museum」定義の見直しでした。最終的には結論が出ず　時間をかけて再検討すべきとのこととなり、次の年次総会において改めて採決することとなりました。

【参考：提案された新たな Museum 定義案】

Museums are democratising, inclusive and polyphonic spaces for critical dialogue about the pasts and the futures. Acknowledging and addressing the conflicts and challenges of the present, they hold artefacts and specimens intrust for society, safeguard diverse memories for future generations and guarantee equal rights and equal access to heritage for all people.　Museums are not for profit. They are participatory and transparent, and work in active partnership with and for diverse communities to collect, preserve, research, interpret, exhibit, and enhance understandings of the world, aiming to contribute to human dignity and social justice, global equality and planetary wellbeing.

（仮訳）

「博物館は、過去と未来についての批判的な対話のための、民主化を促し、包摂的で、様々な声に耳を傾ける空間である。博物館は、現在の紛争や課題を認識しそれらに対処しつつ、社会に託された人類が作った物や標本を保管し、未来の世代のために多様な記憶を保護するとともに、すべての人々に遺産に対する平等な権利と平等な利用を保証する。博物館は、営利を目的としない。博物館は、開かれた公明正大な存在であり、人間の尊厳と社会正義、世界全体の平等と地球全体の幸福に寄与することを目的として、多様な共同体と手を携えて収集、保管、研究、解説、展示の活動ならびに世界についての理解を高めるための活動を行う。」

定義と訳される「definition」には、目的とか使命、機能とか役割などいった様々な意味合いが込められている印象を受けます。

国内において一般的に博物館の「機能」は、収集、保存、調査研究、展示・教育　とされますが、これらはいずれもモノに関わって行われる行為です。一方「役割」とは、その機能を踏まえた上で、人や地域や社会、世界に対して博物館が与える行為、つまり社会的なものだと考えます。モノとヒトの両側面で整理してみてもいいのではないかと思います。

日本の教育法体系から博物館が離脱していきそうな今、また博物館法改正が動き出そうとしている今、ICOM の大会と「定義」の議論を契機に、改めて日本の博物館がめざす役割を考えていくべきだと感じました。

## もの部会第2回見学会

日　時：令和元年12月13日（金）10：00～16：00
会　場：テキスタイルマテリアルセンター（羽島市）、
　　毛織物工場（一宮市・羽島市）
参加者：12名

令和元年度第２回もの部会では尾州（愛知県尾張西部～岐阜県羽島地域にまたがる木曽川沿いを中心とする織物産地）に今も残り、生産を続ける織物工場を見学するとともに、全国から集めた生地サンプルを保存、展示しつつ現在のデザインに生かす活動を行っている羽島市のテキスタイルマテリアルセンターを見学し、社会・経済と結びついた「生きた展示」について、加盟館会員・もの部会員が学びました。

□木玉毛織株式会社（愛知県／一宮市）
紡績：ガラ紡機、織：ドイツ製ションヘル、他。同機（ガラ紡）はトヨタ産業技術記念館にて実演公開されています。この工場では博物館に所蔵されるレベルの大正期の機械を生地生産用としてメンテナンスし、現役で使用しています。

□テキスタイルマテリアルセンター（羽島市）
過去に全国で発表された 10 万点以上の生地を保有し、新たな生地の開発やテキスタイルを学ぶ学生のための教材として公開・利用されています。その他、1896 年にフランスで製作された生地のサンプルブックもあります。通常の博物館展示と異なり、現場に役立つことを第一とし、見本展示を優先しています。一方では毎年、3000 点以上の生地を受入れ続けているため、古いものについては破棄することもあるそうです。

今回の研究会では資料を保存するだけでなく商品開発や教育に対してダイレクトに社会に結び付く活用法を学ぶ機会となり、各館が所蔵する資料の多様な保存・活用の考え方、あり方を再認識する機会となりました。（岐阜県美術館　齋藤智愛）

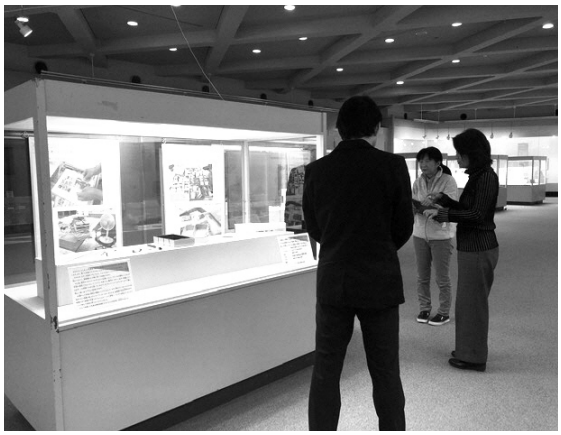
## もの部会第3回部会・見学会

日　時：令和2年1月24日（金）13：30～16：30
会　場：わかくさ・プラザ、岐阜県博物館（共に関市）
出席者：10名

（見学会）

部会員の研修を兼ねた見学会を行いました。わかくさ・プラザ学習館では、関市文化課と関市立図書館による「関市の古地図展」が開催されており、古地図をはじめとする過去の資料から、関市内で発生した災害の内容や被害、治水事業の様子等を学びました。過去の人々によって残された記録類は、災害の姿や人々の向き合い方、その後の社会の変化等を伝えてくれます。その一方で、現在の私たちが、防災の手段や事後対応を考えるヒントにもなるでしょう。もの部会が取り組むべき活動を考えることができました。

岐阜県博物館では、関市との連携による「関市の文化財展」が開催され、会場内に「関市の水害における汚損アルバム・写真等の処理活動記録」コーナーが設けられました。2018 年、もの部会が関わった関市水損写真の洗浄について、当時の作業内容の紹介、洗浄用の道具類が展示され、部会活動とその思いを広く伝える場になっていました。



「関市の文化財展」（岐阜県博物館）

（部会）

見学会終了後、部会を行い、第２回部会活動、地域資料の保全に関するフォーラム（名古屋大学）参加等が報告されました。協議では特に、川崎市等の被災館に関する情報が共有され、長野市の文化財レスキューへの参加、レスキュー体制構築に向けた、来年度の具体的な取り組みが話題になりました。

（美濃加茂市民ミュージアム　藤村俊）

## 第98回研修会
## 「今の著作権あれこれ講演会」

講　師：甲野正道（大阪工業大学　特任教授）
日　時：令和元年9月12日（木）13：30～15：30
会　場：美濃加茂市民ミュージアム
参加者：23名

博物館の日常業務の中で様々な著作権の問題に直面し、悩みを抱えている会員の方々が多くいると思います。ひと部会では、そんな著作権に関する問題を少しでも解決できるよう、２回連続の研修会を企画しました。

第１回は７月12日に会員による勉強会を開催し、各館で直面している著作権の問題や疑問を出し合い、整理を行いました。そして、第２回では『改訂新版　現場で使える美術著作権ガイド2019』の著者・甲野正道氏を講師にお迎えし、ご講演をいただきました。

先生のご講義では、「著作物＝思想・感情を創作的に表現したもの」という基本的な考え方が示され、具体的な事例から著作物の種類についてご説明をいただきました。講義の後には、第１回勉強会で整理した質問事項にお答えいただき、講義や質疑応答により著作権について理解を深めることができました。

しかし、近年でいえばインターネットと著作物の関係など、著作物の範囲は幅広く、今回の研修を受けて知識が増した分、ますます悩みが深くなった点も多々ありました。著作権に関しては、今後も会員相互の勉強会を重ねていく必要性を感じました。

また、今回のように事前の勉強会と専門家の講義の２段階形式の研修会の方法は、参加者が自身の課題を知り、思考し、問題解決をはかるというプロセスを踏むことができ、とてもよい方法でした。今後の研修会の企画に生かしていけたらと思います。

（土岐市美濃陶磁歴史館　春日美海）

第98回研修会

## 第99回研修会
## 「ミュージアムショップの経営」

日　時：令和2年1月10日（金）14：00～16：00
会　場：岐阜県図書館（研修室1）
参加者：40名

研修ではミュージアムショップ経営の事例として、(1) 基金で運営する例（美濃加茂市民ミュージアム）、(2) 公費で運営する例（瑞浪市化石博物館）、(3) 公費で運営する例（四日市市立博物館）の３事例が発表されました。

第99回研修会

(1) の発表では、基金での運営は年度ごとの予算額の影響を受けにくく、突発的なグッズ製作に対応できる利点を持つ反面、条例の制定が大変である等の課題が報告されました。

(2) の発表では、直営でグッズ製作・販売を行うために 1) 解説文を付与する等して「教材」としての付加価値をつけた、2) 学芸員がグッズを考案して専門知識をデザイン等に反映した、3) ショップを展示の延長と捉え、立ち寄りを増加させた等の基本方針や工夫が紹介され、「科学博物館におけるミュージアムショップの在り方報告書」（ウェブ上で入手可能）の内容も紹介し 4) ショップコーナーの面積が狭いという課題（約４㎡、全国平均は約50㎡）が報告されました。

また (3) の発表では、ショップを企画展でも活用している事例が紹介され、これらの報告を考慮すると、ショップには充分な空間が必要であり、ショップを展示の一部として認識する考え方が必要と感じられました。

JMMA 共催研修会のため県外からも参加者があり、発表後は参加者同士の情報交換、岐阜県美術館のショップ見学を行いました。なお、瑞浪市化石博物館の事例報告についての詳細は、雑誌「ミュゼ」に掲載される予定ですので、興味のある方はご一読ください。

（瑞浪市化石博物館　安藤佑介）

## 岐阜ブロック部会　事業報告

岐阜ブロック部会では、令和元年 11 月 10 日に、これからのまちづくりの拠点である美術館・図書館・アーカイブ（MLA）を一日で巡るイベント「岐阜のミュージアム・ライブラリ・アーカイブ MLA を回ろう」を開催しました。これは昨年に引き続き「長良川おんぱく 2019 秋」へ参加し案内人の富樫幸一氏・須山知香氏（ともに岐阜大学）が岐阜県図書館、岐阜県美術館、岐阜市科学館を 14 名の参加者で巡り、それぞれ解説者を交えて和やかに歓談しました。

また、令和２年１月 26 日には「はしま町並み見学会」を開催し、羽島市の町並みを散策しました。14 名の参加者は、まず羽島市歴史民俗資料館・映画資料館を訪れ、市の歴史を学びました。次に不二竹鼻町屋ギャラリーに移動し、市が所蔵する美術作品の鑑賞後、佐吉大仏を拝観しました。永田佐吉翁の孝行譚等を伺ったり、大仏の胎内に入ったりもしました。最後は、ぐるっと羽島（はしま観光交流センター）で、しいたけ茶と岐阜名物のおだまきをおいしくいただき、楽しい見学会になりました。

（岐阜大学教育学部　須山知香／不二竹鼻町屋ギャラリー　土居万莉奈）

## 西濃ブロック部会　会員研修会

日　時：令和元年11月13日(水)10：00～16：00
会　場：関ケ原町歴史民俗資料館ほか
参加者：6名

岐阜県博物館協会西濃ブロックには、１２館の加盟館があり、会員館の諸事情を確認する目的を含め、研修会を開催することにしました。今回の研修は、関ケ原町にある関ケ原町歴史民俗資料館、せきがはら生活美術館、不破の関資料館、石田三成陣跡、及び養老町のひょうたん会館をめぐる企画を立てました。

関ケ原町歴史民俗資料館では、昨年１１月までで一旦営業を休止し、メインの展示を行っていた関ヶ原合戦については、隣接して建設されている岐阜関ケ原古戦場記念館に移されるということで、改装後には、民俗資料の展示と多目的利用の研修を行う施設に変わる予定であるとの説明を受けました。

せきがはら生活美術館は、岐阜県博物館協会未加盟館で、一般企業の関ケ原製作所の施設内に彫刻家の新島実の作品を展示した庭園や、版画家の板倉紀子の作品を展示する板倉美術館などを周遊できるようになっています。もとは社員のための施設であったということですが、昨年からは喫茶ｍｉｒａｉをオープンし、一般にも公開を行っているとのことでした。（展示の見学には予約が必要です。）

ひょうたん会館は昭和４９年にオープンした協会加盟館で、展示室内にはひょうたん栽培をジオラマで紹介しています。ひょうたんに特化した施設としてたいへん興味を引きました。個人経営で、協会の事業に参加する事が難しいという意見をいただきました。

今回の研修でいままで交流が図れなかった館や未加盟のためよく知らなかった施設などに訪問することができ、今後の活動について参考となる経験ができました。今後も、近隣施設との交流を図り、地域活動の活性化を進めたいと思います。

（タルイピアセンター　原田義久）

## 中濃ブロック部会 公開講座×もの部会 郡上市歴史資料館開館1周年記念フォーラム「あなたにも救えるふるさとの歴史」

講　師：松下正和（神戸大学地域連携推進室特命准教授）
日　時：令和元年8月25日（日）13：30～15：45
会　場：郡上市総合文化センター
参加者：35名

もの部会展示

2019 年は、郡上における過去の大災害から節目の年（八幡北町大火100 年など）に当たることから、本資料館では開館１周年記念フォーラムのテーマを、災害と地域の資料保存について考えることに設定しました。そこで昨年度県民文化講演会でも講演された神戸大学の松下先生にお願いし、これまでの取り組み事例や、水損資料の応急措置方法について具体的に解説していただきました。

後半は関市文化財保護センターを中心に、もの部会などと協同で取り組まれた、平成 30 年 7 月豪雨災害における関市上之保地区の汚損写真等の洗浄作業について、同センターの森島さんより報告いただきました。また、連携イベントとして、もの部会にご協力いただき、会場内に関市の汚損写真洗浄作業に使われた道具やその活動の様子を紹介したパネルを展示しました。

（郡上市歴史資料館　岩井彩乃）

## 第160回公開講座「岐阜大学の授業」

講　師：早川万年氏（元岐阜大学教育学部教授）ほか
日　時：令和2年2月22日（土）13：00～14：00
会　場：美濃加茂市民ミュージアム
参加者：29名

中濃ブロック公開講座

企画展「岐阜大学コレクション展」の関連イベントとして実施しました。講師の早川氏は、「地域の歴史と「郷土」教育」と題して、岐阜県の郷土教育運動（大正末～昭和初期）をふりかえりました。学校や教育のあり方、地域の歴史や文化的資源への注目と活用等、多くの学ぶべき今日的な視点が示されました。

（美濃加茂市民ミュージアム　藤村俊）

## 飛騨ブロック部会 第158回公開講座「飛騨市で語る工女さんの記憶」

講　師：林久美子（岡谷蚕糸博物館学芸員）
期　日：令和元年11月23日（土）
会　場：飛騨市美術館
参加者：50名

講師に岡谷蚕糸博物館の林久美子学芸員をお招きし、４条繰諏訪式繰糸機のレプリカを使用した実演解説と、講演会「飛騨市で語る 工女さんの記憶」を開催しました。

講座では、生糸と絹の違い、養蚕から絹製品までの工程を解説されました。また、参加者が繭から生糸を引っ張り、その長さを知る体験も行いました。さらに、出稼ぎで岡谷へ行った工女さんたちが労働だけの毎日であった訳でなく、食事や勉強、娯楽の面で待遇が改善されていった一面を、当時の写真資料などから紹介されました。

実際に製糸工場へ出稼ぎに行った参加者の中には、当時を振り返って涙を流す方がいました。また、自身の母や祖母が工女さんであった参加者には、当時の工女さんが一生懸命働き、家計を支えていた様子を知ってもらうことができました。

（飛騨市教育委員会　黒木祐香）

## 第159回公開講座 飛騨市歴史講座「高校生が語る!」

期　日：令和元年11月30日（土）
会　場：飛騨市美術館
参加者：55名

吉城高校の縄文早期・沢式土器の胎土研究、関高校のひだびと論争研究、斐太高校の安政大地震研究など、高校生の地域研究を周知する目的で「高校生が語る！」と題した３校の発表会を行いました。発表後に研究者からコメントを頂いて研究のブラッシュアップを試みました。最後に各校生徒による座談会を実施し、研究する意義を参加者と共有しました。

参加者からは「高校生が地元の歴史について熱心に研究していることに感動した」「高校生が地元の研究をここまで深く行っていることを嬉しく思った」などの意見が多くあり、高校生の地域研究を知ってもらうことができました。さらに、高校生からは「自分の興味関心に没頭することが人の役に立っていると知った」旨の意見があり、研究が地域の元気につながっていることを認識してもらうことができました。

（飛騨市教育委員会　三好清超）

## 東濃ブロック部会 第156回公開講座「「和」を語る 独自の発展を遂げた日本の和服文化」

講　師：切畑　健（京都国立博物館名誉館員）
　　樹田紅陽（（一社）文化財衣裳修復学会会員）
　　小栗幸江（美濃歌舞伎博物館・相生座館長）
日　時：令和元年9月8日（日）13：30～15：00
会　場：ミュージアム中仙道
参加者：40名

本講座は、岐阜県の民俗文化財「美濃の地歌舞伎衣装」等の保存・復元に助言をいただいているお二人を講師にお招きしました。

日本の伝統服飾の研究者、切畑氏の和服の歴史解説では、「和様」と「唐様」という日中の美意識の違いを比較しながら、「和」の特徴をお話しいただき、京繍や文化財修復の専門家、樹田氏からは、自身の手がけた刺繍や中国の刺繍の特徴等について解説されました。

その後、相生座館長も参加して伝承のあり方や、文化財の修復・復元等に関して議論。衣裳の「復元」はデザインやバランス、素材などはできる限り現状と同じにする一方で、現代人に合ったサイズに変えて「使用する」事を重視する方向に話が進みました。また、切畑氏からは、伝統・文化を担う次世代に向けて、伝統を守る一方で「今様」を取り入れる事も必要であるとの指摘もあり、「和」や「伝承」を語り合う貴重な機会になりました。

（ミュージアム中仙道　宮野陽介）

## 第157回公開講座「学芸員と巡る！木曽海道六拾九次の世界－大湫宿を歩く」

日　時：令和元年10月20日（日）9：20～14：40
場　所：多治見市美濃焼ミュージアム、大湫等
参加者：19名

昨年度の公開講座「学芸員と巡る！木曽海道六拾九次の世界－恵那編」の第二弾として、東濃ブロック部会により実施されました。

開催には多治見市の協力を得て、多治見市美濃焼ミュージアムに集合したのち、多治見市のバスで大湫へ移動。地元のガイドの方に案内していただきながら、琵琶峠から中山道を散策しました。大湫宿では「大湫に過ぎたるもの」と言われた観音堂や、樹齢1300年を誇る神明神社の大杉などを見学。そこからバスで細久手宿へと移動し、尾州家定本陣であった「大黒屋旅館」で昼食をいただきました。

その後、再び美濃焼ミュージアムへと戻り、企画展「宿場町のやきもの－中山道の歴史をうつわでたどる－」を鑑賞しました。宿場とうつわを関連付けて両者の歴史を紹介するというユニークな展覧会で、参加者たちも学芸員の解説に熱心に耳を傾けていました。

（中山道広重美術館　中村香織）

第157回公開講座

## 会員研修会「陶磁資料の取り扱い方」

講　師：山田晃彰ほか
日　時：令和元年11月15日（金）14：00～15：30
会　場：岐阜県現代陶芸美術館
参加者：26名

東濃ブロック部会所属施設の学芸員・職員の知識・技能向上のため、日博協の美術品梱包輸送技能取得士 1 級資格保持者である山田晃彰氏を講師にお招きしました。

100 円ショップの碗を作品に見立てテグスかけなどの実技を学ぶとともに、透明の粘着フィルムの使用など、最新の展示方法についても見識を深めました。講師への質問時間も設けられ、アンケートの回答者全員が次回研修会への参加を希望するなど、好評のうちに研修を終えることができました。

今後も軸（日本画）や古文書の取り扱い方、写真撮影など、部会員の希望を聞きながら内容を検討し、開催を継続したいと思います。

（瑞浪市陶磁資料館　砂田普司）

会員研修会の様子

## 地域歴史文化大学フォーラムin名古屋
## 地域資料保全のあり方を考える

期　日：2019年12月22日（日）

## 東海資料ネット設立総会

期　日：2020年2月16日（日）
会　場：名古屋大学東山キャンパス

災害多発時代といわれる現代、各地で大学の歴史研究者等による資料（史料）ネットの活動が活発です。現在26団体を数えるものの、東海地方はその空白地帯になっています。待望の「東海資料ネット」設立を目指すシンポジウムについて報告します。約100人が参加し、報告とコメントは以下の通りでした。

報告１では、愛知県史編纂に係る悉皆調査で把握された所在情報について、定期的な現況確認で更新していく方針が示されました。

報告２では、東日本大震災の被災仏像修復を踏まえて、相談窓口・資金援助のない未指定文化財は所在情報未整備のため被災によって喪失の危険性が高いという注意喚起がありました。

報告３では、宮城歴史資料保全ネットワークの①所在調査、地域・行政との関係作り、②事務局と保全施設の設置、③発災時の情報収集とレスキュー活動について説明がありました。

報告４では、岡山史料ネットによる岡山県主導の「県ネット」と連動した活動が紹介されました。

愛知県博物館協会の防災訓練なども紹介され、歴史資料ネットワーク（神戸ネット）からは平時の所在情報把握と相互支援ネットワークの構築を急ぐようコメントがありました。質疑応答も活発で、減災対策の重要性が改めて認識されたシンポジウムでした。

（岐阜県博物館　南本有紀）

設立総会には約50人が集まりました。総会に先立つ講演「歴史文化の継承とネットワーク構築」（国立歴史民俗博物館・天野真志）では、東海資料ネット立ち上げへの注視と期待が述べられました。

総会では、規約案と役員案が承認され、活動方針に対して、防災関係者との連携や市民も広く参加できる場など様々な提案がなされました。東海ネットのTwitterも開設されたのでご覧ください。

（郡上市歴史資料館　岩井彩乃）

## 博物館協会インフォメーション

前号でおこなった協会ホームページの改善に関する意見募集を踏まえて、今後は以下のように運用します。

１　協会ホームページにフェイスブック画面を埋め込みました。今後は部会ごとに逐次情報をアップできます。また、フェイスブックのアカウントをお持ちの方は、直接情報を確認したり、コメントもできます。

２　会員専用ページに各部会の議事録などを蓄積していきます。ID とパスワードは別途お知らせいたします。

## 編集後記

各地域ブロック部会をはじめとして、協会の活動が一層盛んとなっています。本機関紙でもそれらを網羅できるよう、従来の６ページから８ページに紙面を増やしました。また、こうした活動をできるだけ早く告知し、広く知っていただけるようフェイスブックを活用するとともに、ホームページもそれに対応するように更新しました。


編　集：岐阜県博物館協会「こと部会」
発　行：岐阜県博物館協会
事務局：〒501-3941
関市小屋名1989（岐阜県博物館内）
（電話）0575-28-3111
（FAX）0575-28-3110
（URL）http://www.gifu-museum.jp/